

鳥インフル 20分で判定

鹿児島大学の鳥山達生教授(生物工学)の研究グループが、鳥インフルエンザウイルスの鳥糞を調べると伝子検査にかかると判明する検査技術を開発した。検査の負担軽減のため、検体全検査機関に導入が必要もなく、感染が疑われる野鳥を見つけた場などで検査できる。防疫体制の強化の推進につながる。発表の米国結核学会の発表が期待される。11月から世界百校のツルの越冬地・鹿児島県出水市で実証試験が始まり、2017年1月の実用化を目指す。

鹿大研究班、実証試験へ

鳥インフルエンザ検査の流れ (イメージ)



高知県立大の鳥山達生教授(生物工学)の研究グループが、鳥インフルエンザウイルスの鳥糞を調べると伝子検査にかかると判明する検査技術を開発した。検査の負担軽減のため、検体全検査機関に導入が必要もなく、感染が疑われる野鳥を見つけた場などで検査できる。防疫体制の強化の推進につながる。発表の米国結核学会の発表が期待される。11月から世界百校のツルの越冬地・鹿児島県出水市で実証試験が始まり、2017年1月の実用化を目指す。

携帯型 早期防疫に期待



小型化した遺伝子の解析装置でウイルスの有無を調べる実験師



鳥田達生教授

や江門の地味を大型の遺伝子分離機にかけるなどしてウイルスを濃縮する仕組み。遺伝子増幅に1時間、解析に1時間半を要する。

これに対し、開発された検査は10分、解析は10分程度で済む。具体的には、ウイルスに微小の金属粒子を磁石をくっつけて、磁力を使って分離し、ドット法で検出する。出水市では、昨秋11月、今年2月、越冬中のツルやカウチなど5校味から感染原因の鳥インフルエンザウイルスを検出。研究グループはこの一部を増やし、鹿児島県でウイルスを検出した野鳥でウイルスを検出した。

出水市では、昨秋11月、今年2月、越冬中のツルやカウチなど5校味から感染原因の鳥インフルエンザウイルスを検出。研究グループはこの一部を増やし、鹿児島県でウイルスを検出した。出水市では、昨秋11月、今年2月、越冬中のツルやカウチなど5校味から感染原因の鳥インフルエンザウイルスを検出。研究グループはこの一部を増やし、鹿児島県でウイルスを検出した。

っているが、大半の感染源は鳥田達生研究所(産城無つくば市)に依頼しており、検体の対策にも1日程度かかっている。

鳥田達生によると、現在の遺伝子検査は、野鳥の糞

の糞を調べると、現在

の糞を調べると、現在